

2016(平成28)年度決算について

学校法人 桃山学院
理事長 出田善蔵

2016(平成28)年度学校法人桃山学院の決算は、監査法人ならびに監事の監査を経たうえで、2017年5月23日(火)開催の理事会で承認されました。ここに決算概要の説明と決算諸表の公開を以下のとおり行ないます。

[決算概要]

(1)資金収支計算書

資金収支計算書は、年度の諸活動に対応するすべての資金収入と資金支出の内容を明らかにするとともに、支払資金の顛末も明らかにする書類です。ここでは、予算額との比較で説明します。

2016年度の決算は、収入の部合計で2億4,964万円増加の178億557万円となりました。これは主に、補助金収入(主に大学経常費補助金収入)、学生生徒等納付金収入(主に高校授業料収入)、およびその他の収入(主に預り金収入)の増加によるものです。

一方、支出の部では、経常費の節減により教育研究経費支出、管理経費支出などが減少し、翌年度繰越支払資金を除く支出合計で3億2,132万円の減少となりました。

このように収入増、支出減の結果、翌年度繰越支払資金は5億7,096万円増加の79億193万円となりました。

(2)事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、年度の教育活動、教育活動以外の経常的な活動、それ以外の活動に対応する事業活動収入と事業活動支出の内容を明らかにし、事業活動収支の均衡の状態(経営状態)をあらわす書類です。計算技術的には、企業会計の損益計算書とよく似ています。ここでは、予算額との比較で説明します。

まず事業活動収入計(旧帰属収入合計)においては、5,600万円増加の104億4,371万円となりました。これは主に経常費等補助金、学生生徒等納付金の増加によるものです。

事業活動支出計につきましては、ヨハネホール天井耐震工事等、学舎の改修に伴う旧施設の除却による資産処分差額が増加した以外は、人件費をはじめとする他の科目において減少し、合計で100億421万円となり、1億1,591万円減少しました。

この結果、基本金組入前当年度収支差額(旧帰属収支差額)につきましては、1億7,191万円増加の4億3,950万円の収入超過となり、事業活動収支差額比率(旧帰属収支差額比率)は1.63ポイント増の4.21%となりました。

基本金組入額につきましては、6,623万円減少の1億994万円となりました。その中身につきましては、図書や備品関係といった恒常的な取得資産の他に、ヨハネホール天井耐震工事等の学舎改修、高校の屋内プール関係工事に関するものがあります。

1億994万円の基本金組入れにより、当年度収支差額は3億2,957万円の収入超過となり、

加えて基本金について図書を除却等、計 2,132 万円を取り崩したことにより、翌年度繰越収支差額は 27 億 4,904 万円となりました。

(3) 貸借対照表

貸借対照表は期末における学院の財政状態を示します。ここでは、前年度決算額との比較で説明します。

まず資産の部ですが、有形固定資産では、和泉キャンパス中長期改修計画に基づく施設設備等の更新が継続中であるものの、減価償却・除却額を上回る大規模な施設設備投資はなく、減価償却等をふまえた資産の減少は 7 億 7,924 万円となりました。特定資産では減価償却引当特定資産の積立等により 1 億円の増加となりました。その他の固定資産では長期貸付金の減少などにより 5,649 万円減少し、結果、固定資産は 7 億 3,573 万円の減少となりました。

流動資産では現金預金の増などにより、合計で 11 億 8,362 万円の増加となりました。これらの結果、総資産額は、4 億 4,789 万円増加の 830 億 5,955 万円となりました。

次に負債の部では、固定負債における退職給与引当金の減少や流動負債における未払金の減少などがあったものの、預り金の増加により、負債合計で 839 万円の増加となりました。

したがって、純資産額は 2015 年度末に比して、4 億 3,950 万円増加の 780 億 9,151 万円となり、総資産額に占める割合は 94.0%となりました。

なお、各々の科目の数値等につきましては別掲「各種計算書類」を、上記財務3表における実績ベースでの経年の概況・比較につきましては決算経年推移資料をご覧ください。

以 上

2016 年度 資金収支計算書
2016 年度 活動区分資金収支計算書
2016 年度 事業活動収支計算書
2016 年度 資金収支・事業活動収支内訳表
2016 年度 貸借対照表
2016 年度 財産目録総括表
2016 年度 収益事業部決算報告
決算経年推移資料